

ちばしゃ通信 (Vol. 7)

私たちが大事にしてきたこと… 各拠点への思い (Vol4)

前号に続き、当法人の拠点づくりやサービスづくりへの思いや考えを伝えていきたいと思ひます、本号では、「サポートセンタースピリッツ」の開設と取り組みについてです。

「本人の暮らしに合わせ、 黒子に徹したサポートを目指して」

平成 17 年 (2005 年) 1 月に、鶯嶺の家の開設を始まりとして、お年寄り・子ども・障がい者等生活圏域のニーズに応じ居場所・拠点型の支援づくりを行い、多機能な支援を実施してきました。

さらに、その拠点を軸として、ご近所・地域の人達との関係づくりや、当事者と家族、認知症・障がいの理解も少しずつ進め、共に支えることを行ってきました。

そのような支援の中で、屋外への外出・移動支援のニーズや数時間にわたるマンツーマンの支援ニーズ、当事者宅での身体介護や家事援助等生活支援ニーズが見えてきました。特に、障がい児・者においては、東金市内にそれらニーズに応えられるサービスがほとんどなかったことから、その必要性を強く感じました。

また、当事者一人ひとりが、自分の意志で、自立した生活をおくるにあたって、必要に応じて対応するマンツーマンの支援は欠かせないものなので、サービスの開設と充実が急務であると考えました。

そこで、平成 25 年 2 月に、鶯嶺の家・子ども支援センターぽけっと等の近くに「サポートセンタースピリッツ」を開設しました。

「“地域で暮らし続けたい！” と思ひ・願う人たちをしっかりと支えたい」という思いを込めて「スピリッツ」と名付けました。

サービスは、居宅介護、重度訪問介護、同行援護、行動援護、移動支援の 5 つあります。これらを活用し、障がい児者の自宅での生活支援を行ったり、屋外への外出にあたっての付き添い・移動の支援を行ったりしています。

私たちの関わりのあり方は、「黒子に徹したサポート」。これまでの居場所・拠点型の支援においても、そのことを大事にしてきました。

本人の思いや行動、人間関係等をできるだけ自然なカタチで引き出し、それをサポートすることは、とても難しく大変なことです。それでも、居場所・拠点型の場合は、場の雰囲気や多様な人達との関わりがあるため取り組みやすいものですが、「スピリッツ」における支援は、マンツーマンの支援であるため、黒子としてのサポートはかなり難しいものです。しかし、一人ひとりとの関わりをしっかりと積み重ね思い描く支援ができるようにしていきたいと考えています。

スピリッツの支援で、障がい児者の「自分らしい地域生活」がより進むよう、取り組んでまいりたいと思ひます。



理事からのメッセージ



「自覚者は責任者である」といったのは、知的障害者福祉の父といわれる糸賀一雄である。糸賀の実践は、第二次大戦後の復興の中、制度も未整備の中で、先駆的なものだった。地域社会の課題に気づき、実践を重ね、福祉の礎を築いた。

かつて社会福祉が社会事業と呼ばれていた時代には福祉の仕組みや制度がない中で、福祉活動を展開した。第二次大戦後、制度が整い始めると制度の未整備な分野へアウトリーチしていった団体も多い。現代の我々も、現状に甘んじることなく、フロンティア精神を持って、地域社会の課題解決をしていかなければならない。

ちば地域生活支援舎の実践は、まさに地域の課題に気づき、それを解決して、一人ひとりの暮らしに寄り添った実践の積み重ねである。その大切にしてきた実践の結果が現在の多様な事業展開になったのである。その人らしい地域での暮らしを支えることは、型にはまった制度の中ではなかなか解決することはできない。暮らしは制度のような縦割りではないからである。制度があるものは事業として展開し、制度にないものは新しいサービスを創り出していった。

同時代に同じ千葉県内に、ちば地域生活支援舎の実践を見ることができるのは、私自身が活動する際の大きなヒントになっている。袖ヶ浦市での障害者グループホームを中心とした活動を始めて10年余り。小さな団体ではあるが、夢は大きい（単に夢想家なだけ）。袖ヶ浦と東金での歩む道はそれぞれだが、目的地は同じである。

誰もが利用できる鶉嶺の家を拠点に始まり、児童から障害のある人、高齢者まで事業が広がっていったのはその延長線上にある。地域の点が線となり、東金市を中心とした地域社会を面として支え、その場で行われる日々の実践は奥行きを持ち、10年という年月の中で様々な軌跡を描いたことだろう。そしてこれからはどんな未来図ができあがるだろうか。

理事の一人として一緒に描いてみたい。

東金市の、千葉県の、日本の、世界の未来図を妄想しながら、日々の実践を積み重ねていきましょう。

大井 純（理事／特定非営利活動法人障害児教育・福祉資料センター 代表理事）

【ときがねフォーラム・ステージ企画出演者・紹介（最終回）】

フルート演奏・宗形 彩

洗足学園音楽大学卒業、同大学院修了。第24回新人オーディション合格、第3回新人フランス音楽コンクール奨励賞受賞。2014年4月にリサイタルを開催。現在、株式会社カルチャー講師、NPO法人碧の会認定講師、ジュエル・ミュージック講師としてフルート・オカリナを指導する傍ら、演奏活動や中学・高校の吹奏楽指導なども積極的に行っている。

ミルクィウェイ

山武市を中心に音楽会を主催、老人施設での演奏活動などを行っている。日頃から童謡、唱歌、歌謡曲、演歌、映画音楽など幅広いジャンルに渡って練習している。メンバーは指導者の松山ますじを筆頭に、岩井久江、吉井政江、佐々木富士子の4名。バンドを組んで4年目になる。

ベリーダンス スタジオ アンティヌール

主宰のベリーダンサー恵巳は、ベリーダンスの本場であるモロッコ人ダンサーに師事し、卓越した技術とベリーダンスの粋にとらわれない自由な表現方法に定評があり、独特なショー演出に高い評価を受け、現在都内を中心にレストラン各ホテルよりパーティ・イベント・ディナーショーへの出演依頼等で活躍中のプロダンサー。

ありっば

姉・ともえ、妹・いずみの姉妹フォークユニット。千葉県を中心に、地域のお祭り・記念イベント・少年院・幼稚園・TV・ラジオなど多方面に活動中。現在、千葉県東金市ポラーノ広場では、週2回の定期公演を開催している。

新緑の眩しい季節となりました。この、原稿の書き始めが台風6号の去った清々しい、初夏を思わせる様な太陽と風薫る大変気持ちの良い朝のことです。私は、4月1日より当法人にお世話になり、一か月があっという間に過ぎ去りました。ちば地域生活支援舎も設立10周年を迎え2月1日(日)には東金市中央公民館にて、盛大な記念式典が挙行されました。

その際、ご祝辞を述べる機会を賜り改めて感謝をする次第であります。これも、当時、地元行政で福祉の仕事をしていた関係で、法人立ち上げのお手伝いをさせて頂き、また、折に触れて係わりを持たせて頂いたことからと思いますし、更に、若干遠回りを致しましたが、ご縁があって事業所の多くの職員の方々と一緒に仕事をさせて頂く機会にも恵まれ、気が引き締まる思いでいっぱいあります。

福祉、介護、保健や医療の仕事は、平成11年より9年間は行政で、その後8年間は現場で経験し、振り返って見れば通算17年間と様々な形で関係を持たせて頂いたことは、沢山の関係者のご支援があったからこそと深い感謝と御礼を申し上げる次第でございます。

只、経験年数が一定期間あるということだけで、中身の方は未熟であり、勉強しなければならないことは山積しております。

前職を辞するにあたり、「晴耕雨読」とは行かないまでも、ラジオと鍬をもって畑仕事とを思いましたが、ちば舎の代表理事始め、役職員の方々、事務局長の温かいお気持ちと、お言葉を頂きもう少し、社会の片隅でこの仕事をさせて頂こうと思いました。

それと、同世代で親交のある友人の方々が、それぞれ立場の違いこそあれ、現役で頑張っているのを見ると、自分もちば舎の職員の方達と一緒に仕事をさせてもらいたいと思ったことも理由の一つであります。

これからの、福祉、介護や医療は、平成27年度よりの3年間、「第6期介護保険事業計画期間」の介護報酬の下げ幅を見ても分かるように、国は社会保障制度改革を真剣に進めて行くものと思います。

ちば地域生活支援舎も10周年の節目と、向こう3か年の短期スパンの中で、将来のあるべき姿、「経営戦略」を役職員、職員一同で取り組むべき期間なのではないかと思えます。

今後の社会保障戦略を見極めつつ、ちば舎と、地域の特性相俟っての、共助、自助、最近では「近助」という言葉がありますが、地域の皆様方のご支援とお力添えを賜り、地元行政や県のご指導を頂きながら、微力ですが、頑張ってお参りますので今後ともよろしくお願い申し上げます。

(齊藤 操/総合施設長)

【各種イベント&活動情報】

SANBO100号記念パーティのお知らせ

日時 6月6日(土) 18:00~
(受付は、17:30)
場所 蓬莱閣(ほうらいかく)
(※東金駅東口徒歩10分)
参加費 一人5,000円
申込先 0475-54-0143(土肥)

特別企画「見せます SANBO」 貴重な創刊号から最新号まで一挙公開

期間 4月1日~5月29日
(土日は休み。祝日は可)
時間 9:00~17:30
場所 ハンドワークありさ
(※東金駅西口徒歩2分)
電話 0475-50-0362

【法人内の各事業所から】

鴉嶺の家（高齢者・障がい者）

先日屋台でH君は唐揚げが食べたいと屋台へ行ったところ、大きい方が500円、小さい方が300円でした。彼は大きい方が食べたいと言いましたが、300円しか持っていないことを知った屋台のおばさんは大きいカップに入れてくださいました。

子ども支援センターぽけっと

CMや歌のワンフレーズをよく口ずさんでいる中学生のR君。先日初めて一人のスタッフの名前を「〇〇さん！」と口にし、そのスタッフが「はい！うれしいなあ～R君！！」と喜ぶとニコニコ照れ笑い。耳に残った音だったのかもしれませんが素敵な偶然でした。

街かど福祉相談室ると

まだまだ福祉に対する認知度は低いなあと感じます。知る機会が少ない、説明されても分かりづらい等理由は様々ですが、より多くの方に分かりやすく伝えることも私たちの大事な役目であると思っています。

ありさ

ゴールデンウィーク前に大量の封入作業を終わらせ、ひと段落。休み明け、早速避難訓練をしました。ありさの周りは旧市街の為、避難場所がサンピア前の中央公園です。みんなで危険個所を確認しながら歩きました(^_^)。昨年やった人はしっかり覚えていました。午後はレクでビデオ鑑賞をしました(*^-^*)

五根の家・グループホーム

4月27日に開所当初よりご入居されておられた方が、入院先の病院でご家族様に見守られながらご逝去されました。笑顔がとても素敵で、家族思いの方でした。スタッフ一同心よりご冥福をお祈り致します。



(0475-50-2557 担当：黒田) 連絡先 ←

鴉嶺の家（児童）

最近よく、オードリー春日の物真似をするK君。「トゥース！」「鬼瓦」「カスカスダンス」と一通り披露して笑わせてくれます。それよりも「なぜ今頃春日？」というところに笑ってしまうスタッフです。

サポートセンタースピリッツ

4月は桜が散った後に雪が降ったり、その1週間後には半袖でいたりと変な陽気でしたね。しかし、これから梅雨に入るまでの間は、気持ちいい青空が広がる日が多くなることでしょう。そんな日は、皆さんと外にお出かけし、楽しい1日を過ごせたらと思います。

ハンドワーク

5月は、母の日のカーネーションカードの封入作業を頑張りました。多くの方々の協力もあり無事、終わることが出来ました。ありがとうございました。

かばの家

先日、利用者さんたちと一緒にボーリングに行ってきました。一人一人独特の投げ方でストライクを狙ってがんばりました。桜あんパンが4月で終わりました。そろそろ抹茶あんパンが販売になります。お楽しみに。

五根の家・小規模多機能ホーム

5月8日に五根の家内で、ナルクの皆さんによる第1回目のサロンを行いました。今回は折り紙で祝い鶴を作りました。手作りおやつに舌鼓を打ち、最後に皆さんで歌を歌って、とても楽しい時間でした。今後も各月で第1金曜日に内容を変えて行う予定です。他の団体にサロンをしてみたいという方は場所の提供が出来ますので是非ご連絡下さい。



ちばしゃ通信 (Vol7)

発行日：2015年5月19日
発行元：ちば地域生活支援舎
編集責任者：宮下・太齋
連絡先：0475-53-3630

編集者のつぶやき

- ・気がつけば5月も半ば過ぎ…年明けから気が抜けない日々が続いている。「そんなの毎年のこと！これまでもそうだったではないか！」と思いつつも、何だか今年はいつもより慌ただしいような気がする。そうだ…今年は今これまでと違うんだ！と改めて実感した。(Jerry)
- ・5月に入り半袖で過ごす日も増えてきました。段々と夏に近づき暑くなっています。この時期でも脱水症状になりやすいそうなので、5月でも気を抜かず水分補給をしっかり行い、体調を崩さないようにしましょう。(W)